

信州姨捨山緣起

併
境
內
碑
文
集

姨捨山縁起

信濃國姨捨山と申し奉るは、地神三代之尊の跡見出世留也。地神三代之尊の御后は開姫と申し奉る。其の父は大山祇の神也。此の神の第三の御娘なり。此のさくや姫の姉を大山姫と申して形悪しく、御心もあくまでたぐく生まれ付玉ひて、他のよみするわざをねたみ玉ひ、他の慈るをよしみ玉ひて御歳四十を過ぎせ玉ふ迄、誰むかへとて妻となし養さんと云ふ神もなく、空しくすぎ玉ひぬるゆへ、いよいよ御心もさだかあらで、御心情しやうをらせ玉ひ、他をせしり、自らを讃え、御姫さくや姫の御事をも憐れ玉ふ故、御仲よからす侍りき、たにぎの尊の御子、二の神開姫の御腹に出でさせ玉ふ。第一の御子はあかりの尊、第二はのすせりの尊、第三はは出見の尊、是れ甲子にてまします。第四の御子姫にておはしまし、木の花姫と名付玉ふ、此の御姫十三の御年、大山祇の甥の神と御夫婦に成玉ひて、御子達をもふけさせ玉ふ。或る時姨捨来り玉ひて、御身はいみじく栄え玉ひ清山志、自らはいかなる故か四十過ぎまで独り暮しぬる。物憂やと掻き口説き御むつかり玉ふ。木の花姫の曰く、独り暮させ玉ふに直ぐなる道を行ひ玉はず、姨捨の御心狂します故、諸人嫌ひて誰迎え奉らせん神もなし、今よりは直ぐに成り玉へと諫め玉へば、姨捨の曰く、何として直ぐなる心に成られぬや、教え玉へとありければ、其の時木の花姫の曰く、是れより北の国に行き玉ひ、まん底の月を詠み玉はば、御心直ぐに成り玉はん、とおしへ玉ふ。姨捨いさやとの玉ひて、姪姫諸共悦びいさみ玉ひて、夫より数々の谷峰を打ち越え玉ひ、ようようと高根山のふもとに着き玉ふ。爰にて姪姫わすかの小石に上り指さし玉ひて、此の山のあなたら磐石あり。此の磐石に上り玉ひて、御心穩かに四方を眺め玉ひて諸人を慈み玉ふ御事の御心のうちを觀じ玉へと諫め玉へば、姪姫旅の疲れに自體も弱り、暫く秋の月を眺め玉ふ内に柔和の御心徳自然と生じ、忽ち大悟ましまして、姪姫事に向ひ玉ひて曰く、夫れ天地は陰陽和合を以て本とす、陽は父なり、陰は母なり、依って陰陽和合なして、山河天地の草木萬物出世する也。故に天が下に國三つあり、月は月氏國、星は震旦國、日は日本國なり。されは今宵は八月十五夜、則ち田毎月滿の月爰に現じ玉ふ。是れ即ち陰中陽火の道理、父母未だ生れざる已前の正姓を知れり。夫れ九日域において、我は是れ幕代主の命、汝は建御名方の命、末世に至り我を慕はん。今天に登るとの玉ひて、その御形見を玉はる。姪姫嬉しく思召して姨君には、凡慮を左右に捨てさせ玉ひけると御託を拜し玉ふ。夫れより以來、此山を姨捨山と云はれり。さて姪姫いとけなき児を抱き、高根山へと登り、御児に冠を着せ玉ひて、御身は則ち冠着神と現じ、末世の小児守護神となり玉へり。日本は晴路羽の姿に似たる國なればとて

晴路羽のすかたに似たる國に居て、神のちかひや、我れ人のため

と誄じ玉ひて、我は月氏に生せんとの玉ひて、上天まします。夫れより冠着見遺石と名付く。其後はるかに程過ぎて、聖徳太子馬に乗り玉ひて姨捨山に至り、國氏書に語りて曰く、汝事よくきけ、古へ此の山にて月を誄じ、大山姫は天竺において、普賢菩薩に現じ、木の花姫は文殊菩薩と成り、等正覺と名り玉ふと云ふ。

(本文は昭和六年東京國技館に於て全國名宝展覽會開催の際出品せる木版の字)

長樂寺境内碑文集

月見るや滞りなく七むかし
 名月や花には明日といふ日あり
 我心月にみかくや山の上
 暮るから月は鏡となる夜かな
 月一夜其の傍をふくむ山
 婁捨やこころが杖の置處
 あはれさを姿に月の晴曇
 婁捨や月に見らるる人ごころ
 待宵や明日の夜の月は貯はれず
 青空を田毎のいろや夕日影
 名月やいく夜もたかし岩の音
 名月の光にくらきふもとかな
 婁捨や月をむかしのかがみなる
 月の都まことに月の都かな
 とり直す婁が心や今の月
 月は世のまことを照らす鏡かな
 曇るとは人の上なり今日の月
 名月やあしたは人のひる眠る
 あひにあひぬ婁捨山に秋の月

静 寛 白 籍 仙 一 春 梅 守 景 羊 竹 白 十 月 桑 剛 景
 一 考 暹 王 光 風 映 朗 武 山 耕 園 雄 湖 人 月 月 栗 茂 宗 達
 静 寛 白 籍 仙 一 春 梅 守 景 羊 竹 白 十 月 桑 剛 景
 一 考 暹 王 光 風 映 朗 武 山 耕 園 雄 湖 人 月 月 栗 茂 宗 達

姨捨の山の月からあわれさようしろに負て帰るまで見つ

面影や姨ひとり泣く月の友

花はよし野姨捨山の秋の月

世の塵をぬふ心は更級や姨捨山に埋む黒髪

空に一つあまりて月の田毎かな

はじめから良夜続て秋の月

何處までも汗え行く月の鏡かな

名月や雪の様なるそばの花

誰が眼にもきて姨捨や秋の月

名月や思ふまじきは過去未来

長蛇速すがごとく月の千曲川

名月に瀬音ひそめて千曲川

曳杖や月の力の七十里

花とふる光を浴びて月恋し

見えぬ我眼にも明るし山の月

姨石の高きわすれて月や月や

更級や姨捨山の月ぞこれ

久客都門憶信州 賦詩聊遣望鄉愁

梯田逐影層層水 王鏡台前明月秋

鏡台山頂昇明月 千曲清流銀河長

山麓里村秋稔豊 姨捨山堂一瞬眺

四方歌垣

菅原道隆

襦 鶴

備中国昌明

松 堂

鳳 朗

迎 祥

一 翁

旦 海

可 都三

聽 秋

里 軒

曹 溪

霞 遊

盲 天来

碩 布

虚 子

天 上

羊 好

月の名所

信州姨捨山

長樂寺